

# すべての学習活動のコアに探究をおき、教師のあり方から問い直す

広島観智学園中学校・高校（広島県立）2019年4月開校

## 探究ベースの学びを全県にシンボルとなる新設校

2014年12月、広島県教育委員会は「広島版『学びの革新』アクションプラン」を策定した。10年後の目指す姿と最初の5年間のアクションプランで示されたのが、県下全小中高校で推進する課題発見・解決学習と異文化交流である。2001年から県が取り組んだ学力向上プロジェクトにより、ペーパーテストの点数は伸びたが、意欲や社会で求められる力がついていない、出発点にはそんな課題意識もあった。目指すのは、グローバルで不確実な世の中で「広島で学んだことに誇りをもち、胸を張って『広島』『日本』を語り、高い志のもと、世界の人々と協働して新たな価値（イノベーション）を生み出すことのできる人材」の育成。そして、そうした人材を育てることのできる教員の養成だ。

県立広島観智学園は、この変革を牽引する学校として構想され、来年度開校を迎える。1学年40人の中高一貫

校、大崎上島という離島地域での全寮制教育、高校から国語以外は英語で授業を行い、1学年20人の留学生を全世界から募集、国際バカロレアの認定を目指す。公立としては規格外の学校像だが、グローバルに活躍できるリーダーを育てるとともに、ここから生まれる新しい学びの形を、全県に波及させることも期待されている。

掲げたミッションや重点的に育成する力(図1)からは、県全体の方向性をさらに先鋭的に実現しようという意志が見てとれる。現在建設中の校舎(写真左下)は、知の拠点となるメディアセンターや協働的な授業に適した教室設計がなされ、ソフト・ハードともに探究学習を実現する準備が進行中だ。

## 未来創造科を核に全教科で探究的な学びを

開校準備を進めてきた林史校長は「ミッションに掲げた『平和』には、世界の平和も家庭の平和もあります。『学びを通じて平和な社会を実現し続ける』ということは、世界や身近な場所

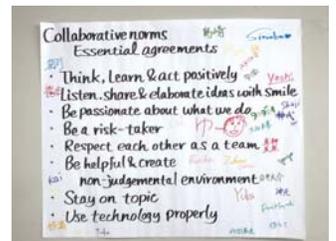
で、本当に実現のため行動できる人を育てること。自分の意志をもち、自分で決断でき、自分の人生を自分で創ることのできる人を育てたいと考えています」と設立への思いを語る。

そのための具体的なカリキュラムの柱は、総合的な学習の時間にあたる「未来創造科(図2)だ。初期には半期ごとに「幸せ」「環境」「社会正義」の大テーマを設定。デザイン思考を取り入れグループで協働しながら調査やアイデアの作り方などを学び、解決策の実行を行い、リフレクションをする。次に、それらのテーマを探究するなかで広げた視野や、課題意識を元に個人プロジェクトに取り組む。中学3年からは認定申請予定の国際バカロレア(IB)カリキュラムに沿って、中等教育プログラム(MYP)、ディプロマプログラム(DP)の各プロジェクトに取り組み予定になっている。

IBのプロジェクトは「探究」「行動」「振り返り」を循環させながら行う活動だ。活動を通して知識・姿勢・スキルを身に付け、コミュニケーションに行動をもって貢献できる人となることが目標と



校長  
はやし ふみ  
林 史先生



- ・ポジティブに考え、学び、行動する
- ・笑顔でアイデアを傾聴し、共有し、吟味する
- ・取り組んでいることに情熱を持ち続ける
- ・リスクテイクになる
- ・チームとしてお互いを尊重し合う
- ・助け合い、公平、中立的な環境をつくる
- ・本質から外れない
- ・テクノロジーを適切に使う

広島観智学園の教職員と林校長。学校を創っていくチームとして大切にしたい行動規範、約束事を話し合い、合意した宣言を壁に掲示している。



(写真上) 探究的な学びを実現するために、教室はディスカッションや協働活動に適したデザインを採用。(写真左)図書室は知の拠点として多様な探究・創造活動を支える「メディアセンター」として設計している。





図1 広島叡智学園のミッションと育成する力

**【ミッション】**

学びを通じて平和な社会づくりを実現し続ける存在となることを目指す

To be a global leader in building peace  
with the power of "Learning".

**【ビジョン】**

社会の持続的な平和と発展に向け世界中のどこにおいても  
地域や世界の「よりよい未来」を創造できるリーダーを育成する

To foster leaders who create in their community "a better future"  
for peace and sustainable development.

「学びの変革」の目指すべきモデルとなる

To be an excellent model in "Learning Innovation".

**【バリュー】**

「グローバルな視野」と「地域に根ざした心」の双方を大切に、  
主体的に学び続ける「ラーニングコミュニティ」を形成する

To be a learning community whose global vision is rooted in local context.

重点的に育成する力

- 様々な場面で活用できる知識・技能の深い理解
- 新しい価値を生み出す創造的・批判的思考力
- 異なる文化・価値観を持つ人々と協働する力
- 目標に向かってやり抜く力・自信
- 日本語でも英語でも議論・協働できる高い語学力

されている。そのため、取り組むテーマや行動が、社会的な文脈の中でどんな意味をもつのかを生徒自身が自覚することが求められる。特に、パーソナルプロジェクトでは、科目固有の学習がどう生かされたのかを内省し、言葉にする必要がある。自ずと教科の学びとの往環も生まれる。

カリキュラム全体を貫くのは「社会で活躍できる力を育成する学び」「生徒の「？」から始まる学び」「実社会とのつながりを大切にしたい学び」の3つの観点だ。教科の授業内でも思考ツールや情報収集などの学びの技を使い、理科・社会はテーマベースの探究で単元を組み立てるなど、教科でも探究型の学びを構築中だ。

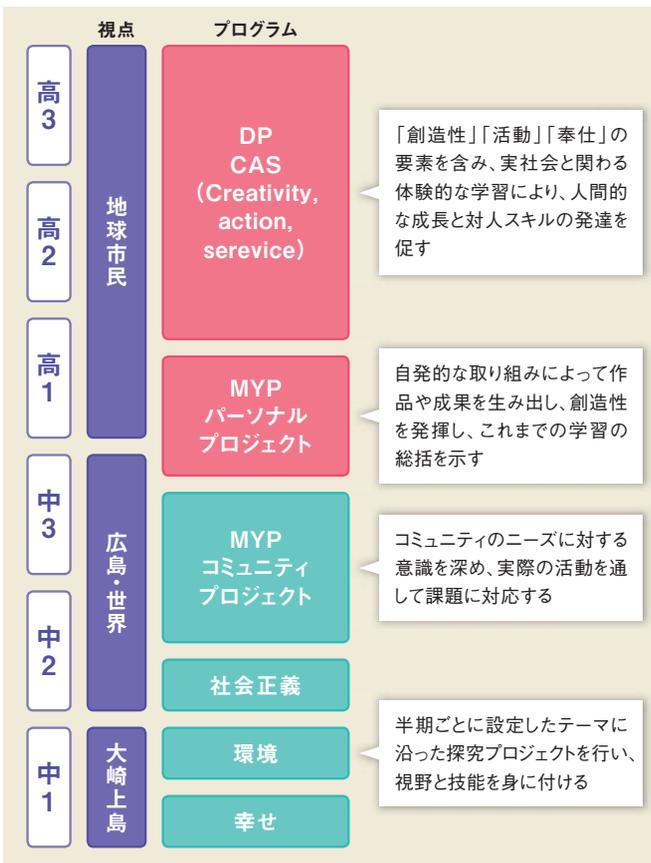
**最大の鍵 教師のマインドセットが**

「各種のプロジェクトを通して自分のテーマに出会い、高校段階での科目選択につなげたいとも考えています。何をしたいのかを考え、選んで行動することは、ずっと進路選択をしているようなもの。また、行事その他も生徒に決定権をもたせようという考えでいます。こういう環境の中でこそ、生きていくのに必要な力が育つと思っています。学校生活すべてを自ら問いをもち、考え、行動する環境を整えようとしているのだ。

加えて「教師のマインドセットの変革がなによりも大切です」と林校長。開校準備にあたる教員たちは、海外留学

や視察、IB教員研修、単元づくりの勉強会などを重ねながら、探究を支えるファシリテーターとしてのスタンスやスキルを磨いている。その準備を進める部屋の壁には、全員で話し合った行動規範(写真右)が貼り出されていた。「笑顔でアイデアを傾聴し、共有し、吟味する」「リスクテイカーになる」「チームとしてお互いを尊重し合う」。「開校準備プロジェクトに取り組むことが、いちばんの研修かもしれないですね」と林校長。来春入学してくる生徒たちも、ともに学校と未来社会を創るプロジェクトチームメンバー、先生たちにはそんな未来が見えているのかもしれない。

図2 未来創造科の構想



プログラムのうち赤の囲みは個人、緑の囲みの項目はグループで取り組む。